

第1章 武蔵村山市次世代育成支援

行動計画策定にあたって



第1節 行動計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

我が国において、現状の人口維持には合計特殊出生率が2.08必要であると言われていますが、平成2年の「1.57ショック」以来、少子化は加速傾向にあり、少子化対策は早急に取り組むべき国政上の重要課題となっています。

従来、少子化は、晩婚化、未婚化が主たる要因と考えられていましたが、近年の「夫婦の出生力の低下」という新たな現象により、平成14年の合計特殊出生率は1.32にまで低下しており、このような急速な少子化の進行により、平成18年をピークに、日本の総人口は減少に転じる予測となっております。

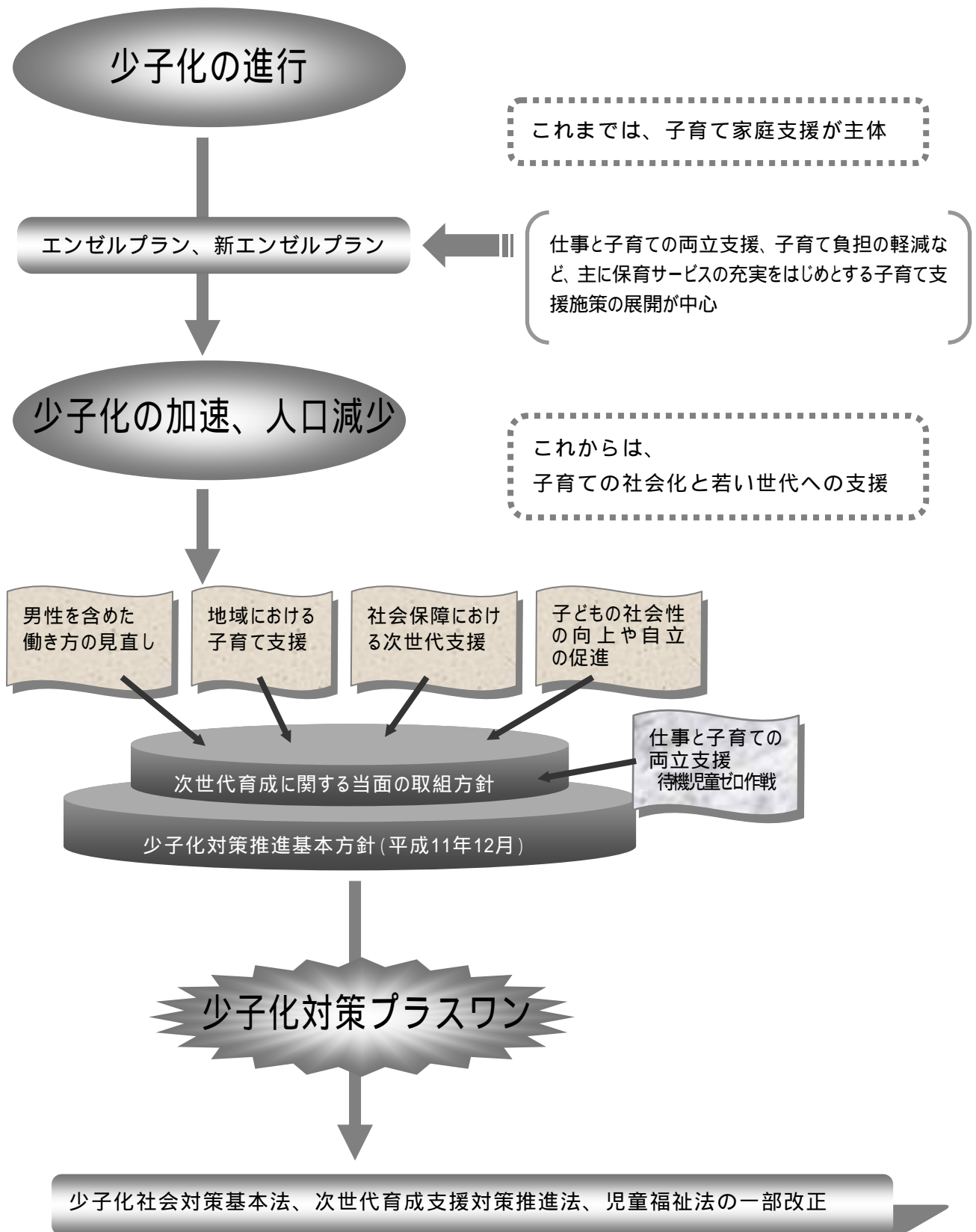
国では少子化の流れを変えるため、「少子化対策推進基本方針」(平成11年)に基づき、「新エンゼルプラン」(重点的に実施すべき対策の具体的実施計画)を策定したのに続き、平成14年には「少子化対策プラスワン」を発表し、従来の“子育てと仕事の両立支援”を中心とする施策に加え、「男性を含めた働き方の見直し」「地域における子育て支援」など、「子育ての社会化」の必要性を提起しています。

このような背景において、平成15年7月には、少子化対策を総合的に講じるために、その理念を定める「少子化社会対策基本法」が成立するとともに、国と地方公共団体に少子化対策実施の責務、企業に協力の責務を課す「次世代育成支援対策推進法」と、すべての子育て家庭支援のため、地域における子育て支援の強化を図る視点から「改正児童福祉法」が制定されるなど、国において、総合的な少子化対策を推進することになりました。

このことに伴い、本市においても、地域全体で子育てを支援する体制を整備し、子育ての社会化を促進することを重要な課題と捉え、次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくりに向け、更なる支援策を講じることになりました。

そこで、次世代育成支援対策推進法に基づき、市民ニーズを把握し、少子化の流れを変えるための総合的・計画的な施策を推進するため、本計画を策定します。

【図 少子化対策の変遷】



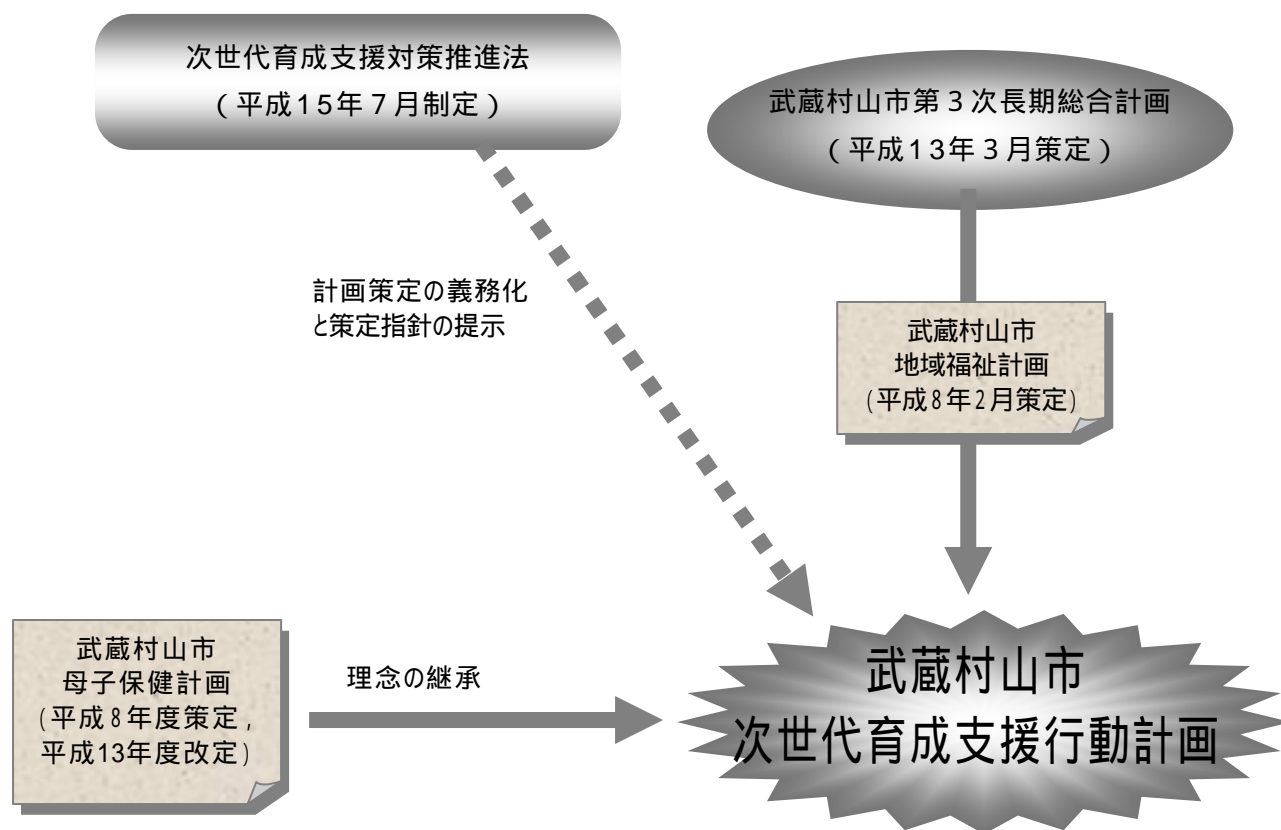
2 計画の性格

本計画は、次世代育成支援対策推進法第8条第1項の規定により策定したもので、すべての子育て家庭と子どもたちを対象に、本市がこれから進めていく次世代育成支援対策の目標や方向性を示したものです。

また、「武蔵村山市 第3次長期総合計画」等を上位計画として、既存の計画である「武蔵村山市母子保健計画」の理念も継承しており、母子保健、小児医療、児童福祉、教育、その他育児支援における環境整備等、次世代育成にかかわる施策を推進するためのものです。

さらに、本市の次世代育成支援対策を着実に推進していくために、本計画に基づいて市民一人ひとりをはじめ、各家庭や学校・地域・職場の積極的な取組みを促進するものです。

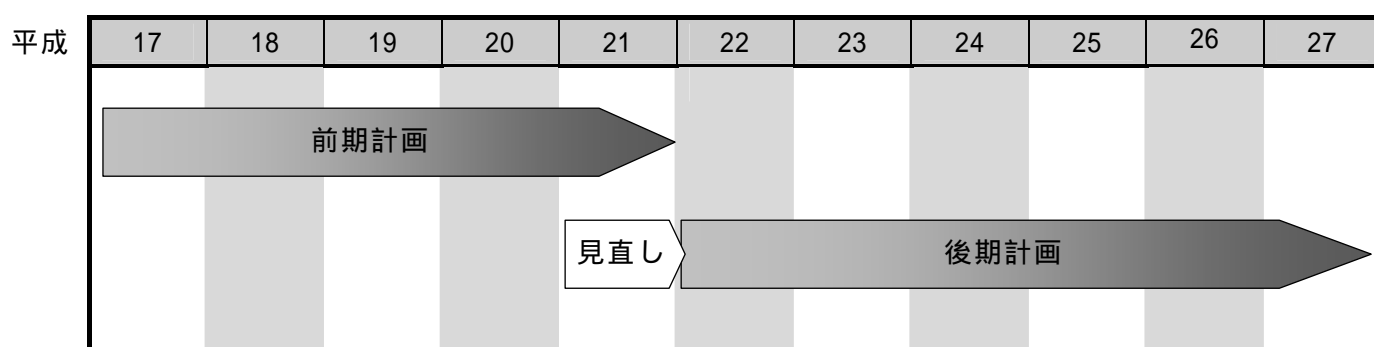
【図 計画の位置づけ】



3 計画の期間

本計画の期間は、平成17年度を初年度とし、平成21年度を目標年度とする5年間の前期計画です。なお、次世代育成支援対策推進法に基づき、平成21年度に必要な見直しを行い、平成22年度からの後期計画を策定しますが、武蔵村山市地域福祉計画に合わせるために後期計画は6年間とします。

【図 計画の期間】



第2節 子どもを取り巻く環境

1 子どもと子育てを取り巻く環境

(1) 少子化の進行

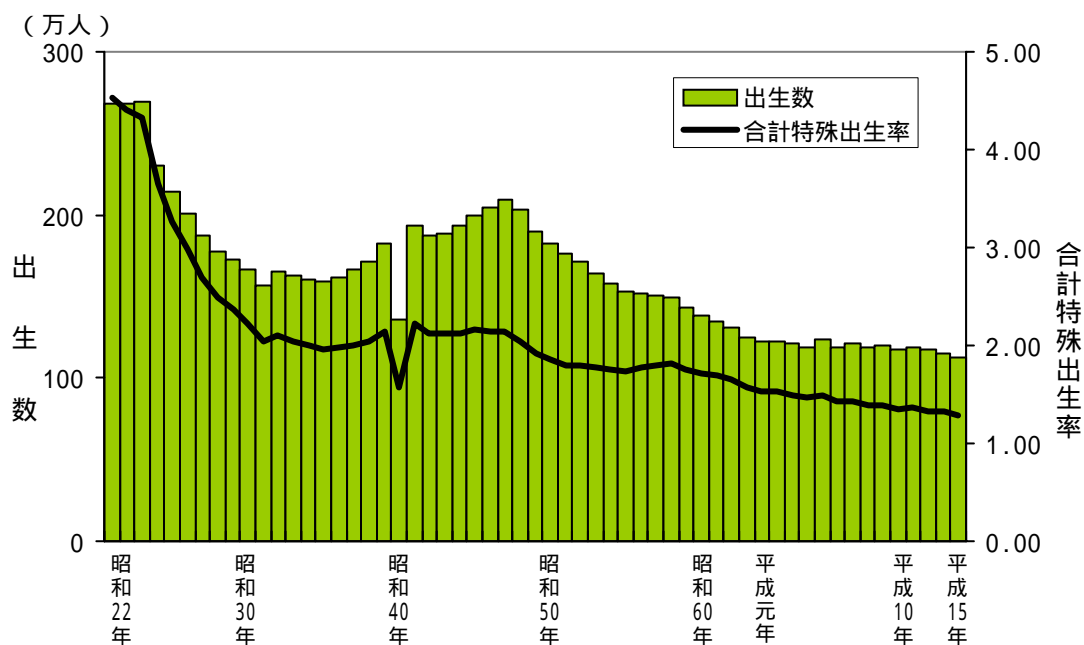
平成15年の全国の出生数は、前年をやや下回り、昭和49年以降の減少が依然として続いています。

また、女性が一生の間に生む子どもの数を示す合計特殊出生率も、昭和50年に2.08人を下回って以来、平成6年は1.50人、その後、徐々に低下し、平成15年には1.29人となっています。現在の人口を維持するために必要とされる人口置換水準の2.08人には及ばず、少子化の傾向が著しく進んでいます。

東京都の平成15年の合計特殊出生率は、1.00人と低水準となっています。

また、武蔵村山市の平成15年の合計特殊出生率は、1.24人であり、全国平均とほぼ同じ水準であるといえます。

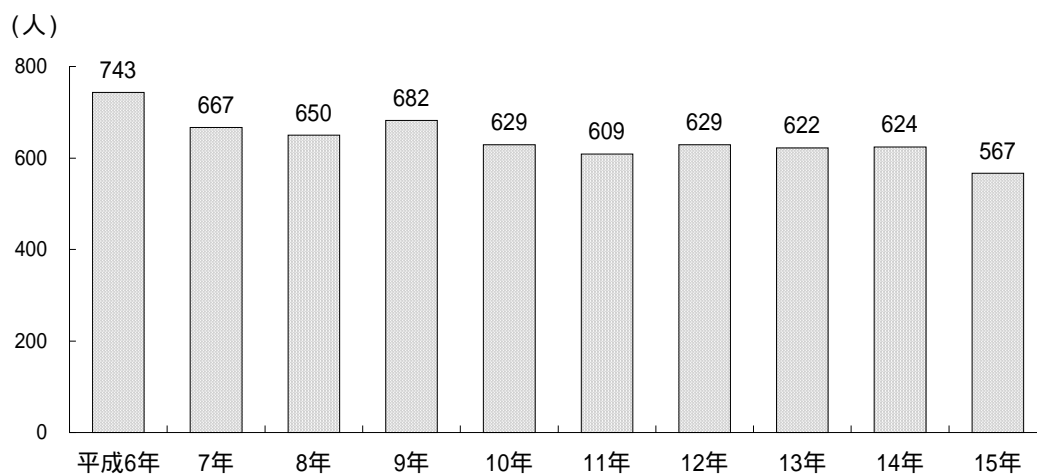
図1 出生数と合計特殊出生率の推移（国）



(注)昭和41年はひのえうまにあたるため出生数が少ない。

(資料：厚生労働省人口動態統計)

図2 出生数の推移（武蔵村山市）



(資料：厚生労働省人口動態統計)

図3 合計特殊出生率の推移（国、都、市）

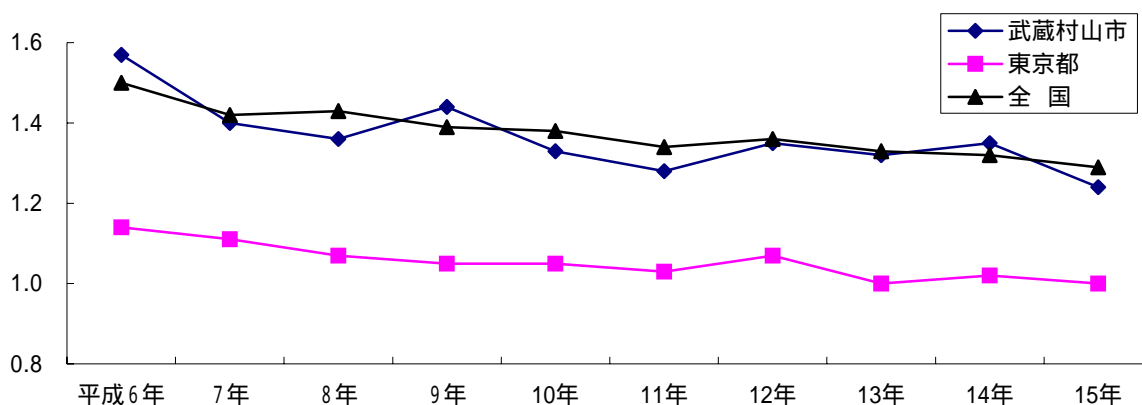


表1 合計特殊出生率の推移（国、都、市）

(単位：人)

区分	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
武蔵村山市	1.57	1.40	1.36	1.44	1.33	1.28	1.35	1.34	1.34	1.24
東京都	1.14	1.11	1.07	1.05	1.05	1.03	1.07	1.00	1.02	1.00
全国	1.50	1.42	1.43	1.39	1.38	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29

(資料：厚生労働省人口動態統計 東京都、全国
東京都人口動態統計 武蔵村山市)

(注)合計特殊出生率は、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数を表すものであり、15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したものである。

(2) 子どもの推移

武蔵村山市の0歳から14歳の子どもの数は、平成2年では12,127人（人口の18.6%）、平成16年4月1日現在では9,997人（人口の15.2%）であり、14年間で2,130人の減少となっています。

人口の推移は、平成2年では65,201人が平成16年では65,811人であり、横ばいの傾向が続いています。

しかし、平成2年と平成16年を比較した場合、65歳以上の人口は4,712人（7.2%）から10,336人（15.7%）に、5,624人増加しており、少子高齢化を示しています。

図4 年齢別及び割合の推移（武蔵村山市）

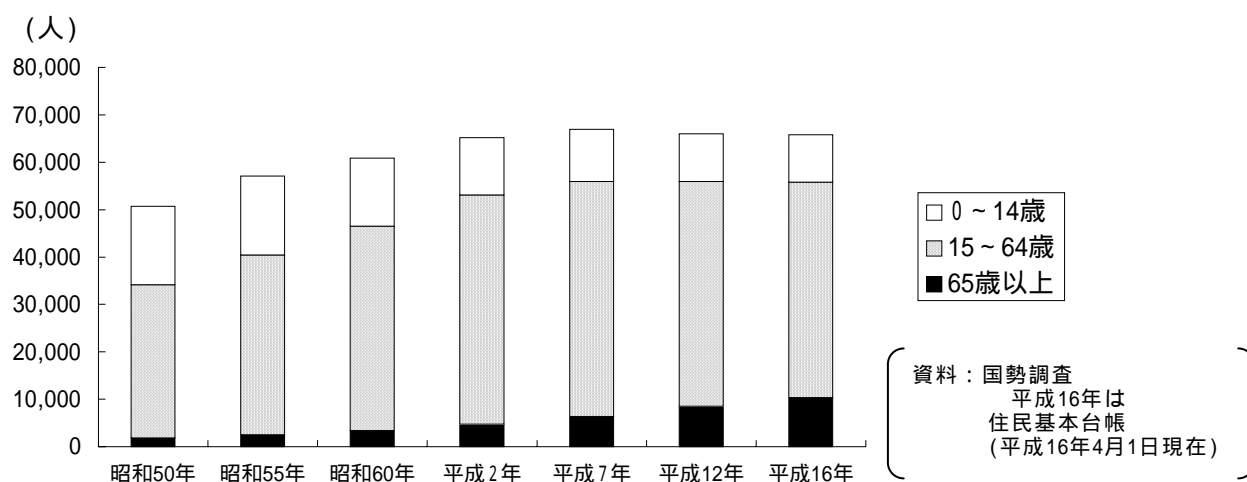


表2 年齢別及び割合の推移（武蔵村山市）

(単位：人，%)

区分	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成16年
人口総数	50,744	57,102	60,834	65,201	66,966	66,015	65,811
0～14歳	16,614 (32.7%)	16,684 (29.2%)	14,332 (23.6%)	12,127 (18.6%)	11,028 (16.5%)	10,097 (15.3%)	9,997 (15.2%)
15～64歳	32,326 (63.7%)	37,904 (66.4%)	43,096 (70.8%)	48,362 (74.2%)	49,600 (74.1%)	47,394 (71.8%)	45,478 (69.1%)
65歳以上	1,804 (3.6%)	2,514 (4.4%)	3,406 (5.6%)	4,712 (7.2%)	6,338 (9.5%)	8,524 (12.9%)	10,336 (15.7%)

資料：国勢調査
平成16年は
住民基本台帳
(平成16年4月1日現在)

(3) 未婚者の増加

未婚率の推移を各年代別でみると、武蔵村山市の場合、男性では25歳から39歳で、女性では25歳から34歳で著しい増加傾向が示されています。

このように、男女とも晩婚化の傾向が非常に強くなっている背景には、高学歴化や就労の増加により、結婚せず就労を継続する女性が増えたこと、結婚、出産、子育てに関する心理的・肉体的・経済的負担感があること、結婚に対する個人的・社会的な意識が変化したこと等があると考えられます。

武蔵村山市でも、全国や都と同様に、晩婚化に伴う未婚率の上昇が少子化の要因となっている事実を裏付けるものといえます。

図5 未婚率の推移（国、都、市の比較）

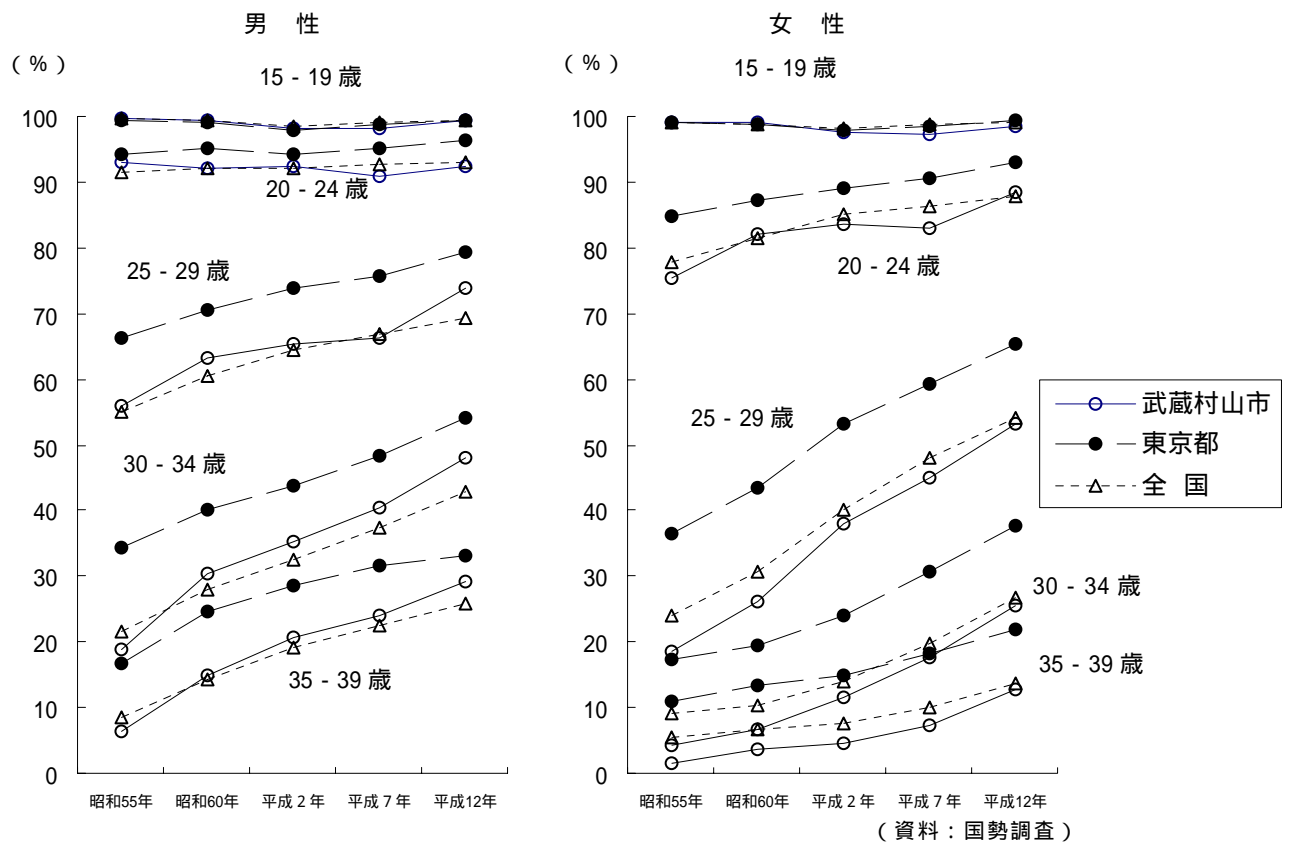


表3 未婚率の推移（国、都、市）

（単位：％）

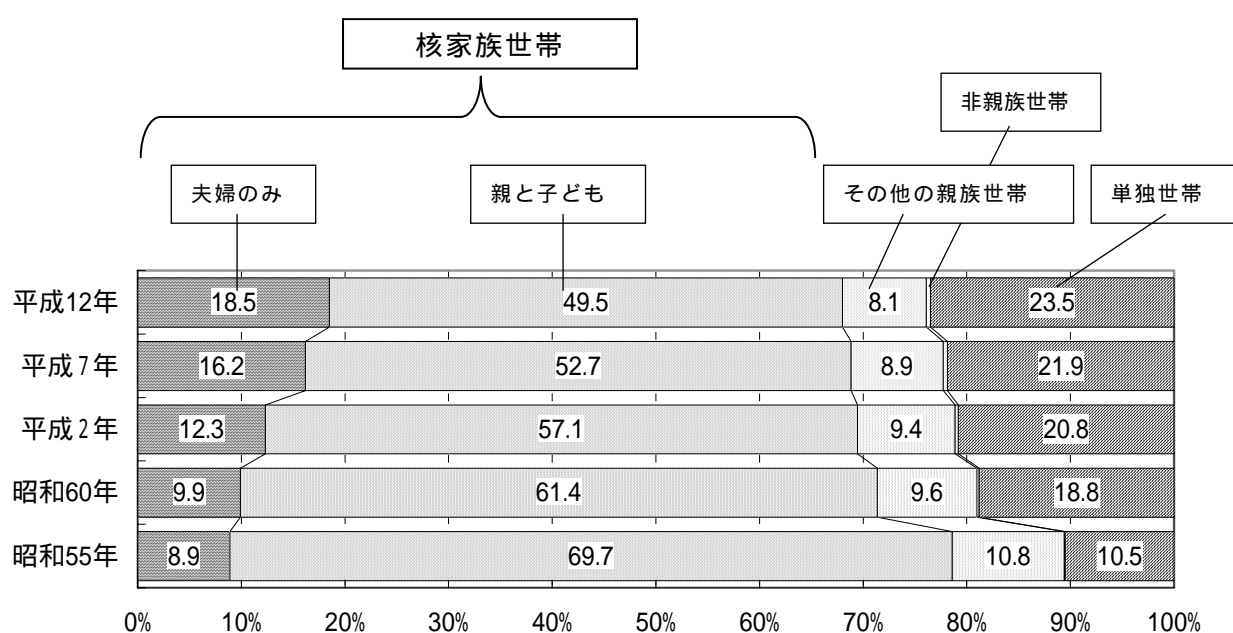
年齢	区分	（男性）					（女性）				
		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
15～19歳	武蔵村山市	99.7	99.4	98.3	98.3	99.3	99.0	99.0	97.5	97.4	98.5
	東京都	99.4	99.2	97.9	98.7	99.5	99.0	98.8	97.8	98.5	99.3
	全国	99.6	99.4	98.5	99.2	99.5	99.0	98.9	98.2	98.9	99.1
20～24歳	武蔵村山市	93.0	92.1	92.4	90.9	92.4	75.3	82.2	83.5	82.9	88.4
	東京都	94.2	95.0	94.1	95.0	96.5	84.8	87.3	89.2	90.6	93.0
	全国	91.5	92.1	92.2	92.6	92.9	77.7	81.4	85.0	86.4	87.9
25～29歳	武蔵村山市	55.9	63.2	65.3	66.3	73.9	18.5	26.0	38.0	44.9	53.2
	東京都	66.2	70.4	74.0	75.8	79.4	36.6	43.4	53.1	59.4	65.3
	全国	55.1	60.4	64.4	66.9	69.3	24.0	30.6	40.2	48.0	54.0
30～34歳	武蔵村山市	18.7	30.3	35.4	40.5	48.1	4.2	6.8	11.5	17.7	25.4
	東京都	34.4	40.1	43.7	48.2	54.1	17.2	19.5	24.1	30.8	37.6
	全国	21.5	28.1	32.6	37.3	42.9	9.1	10.4	13.9	19.7	26.6
35～39歳	武蔵村山市	6.5	14.9	20.7	24.1	29.3	1.5	3.6	4.5	7.3	12.9
	東京都	16.7	24.5	28.5	31.5	33.1	11.0	13.3	14.8	18.3	22.0
	全国	8.5	14.2	19.0	22.6	25.7	5.5	6.6	7.5	10.0	13.8

（資料：国勢調査）

（4）家族形態の変化

武蔵村山市の世帯の家族類型比率をみると、結婚しても子どもを持たない夫婦のみの世帯が増加しており、夫婦の出生力が低下していることがわかります。

図6 世帯の家族類型比率の推移（武蔵村山市）

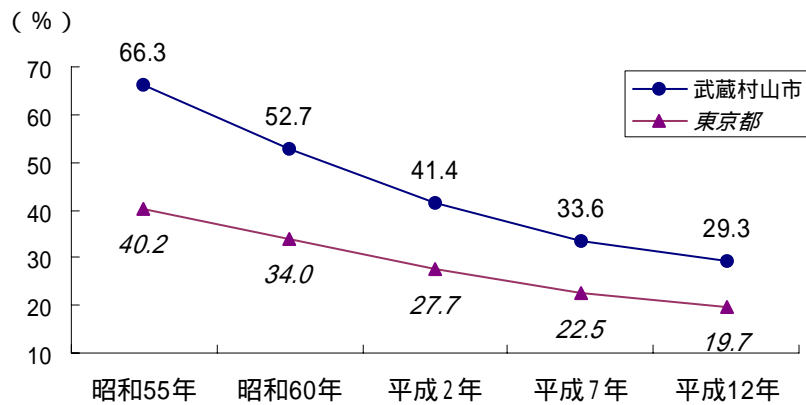


（資料：国勢調査）

さらに、東京都と同様に、武蔵村山市の親族世帯のうち18歳未満の子どもがいる世帯は徐々に減少しており、平成12年には29.3%となっています。

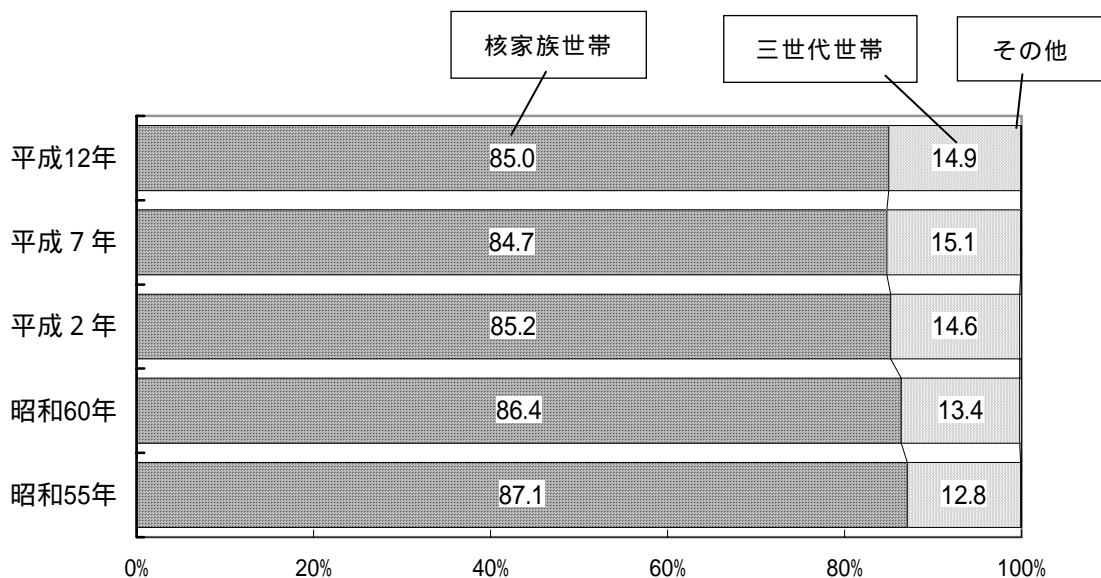
また、18歳未満の子どもがいる世帯の家族構成をみると、核家族が85.0%と、三世帯世帯の14.9%を大きく上回っており、武蔵村山市でも核家族が圧倒的に多くなっています。

図7 親族世帯のうち18歳未満の子どもがいる世帯の推移（都、市）



(資料：国勢調査)

図8 18歳未満の子どもがいる世帯の家族構成比の推移（武蔵村山市）



(資料：国勢調査)

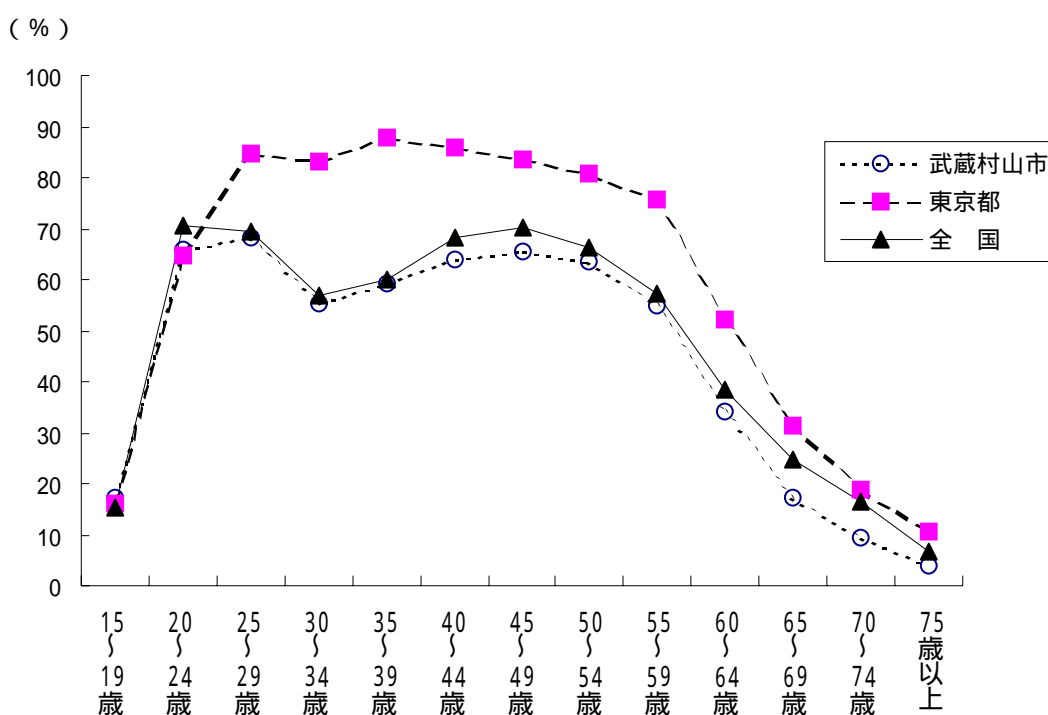
2 女性の就労と子育て

(1) 就労女性の増加

女性の高学歴化や自己実現意欲の高まり等により、全国的に女性の就労は進んでいます。

女性の就労率を各年齢別で見ると、武蔵村山市も全国や東京都と同様に30歳から39歳の労働力人口が低く、M字型の就労構造を示しています。これは、結婚や出産を機に退職し、子育てが終わってから再び仕事に就くという女性が多いことを示しています。

図9 女性の年齢別就労率（国、都、市）



（資料：平成12年国勢調査）

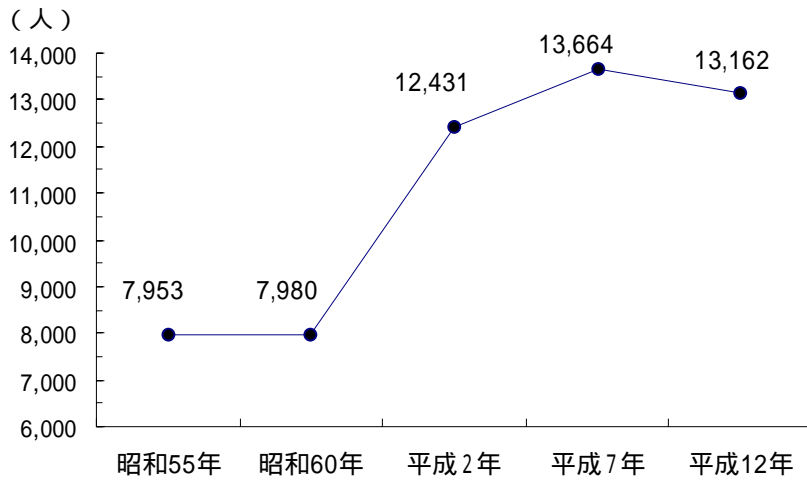
表4 女性の年齢別就労率（国、都、市）

（単位：％）

区分	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上
武蔵村山市	17.2	65.8	68.4	55.4	59.4	63.8	65.5	63.5	54.9	34.1	17.3	9.4	3.9
東京都	16.0	64.9	84.9	83.3	87.8	85.9	83.4	80.8	75.5	52.1	31.5	19.0	10.7
全国	15.4	70.5	69.6	57.0	60.0	68.2	70.3	66.2	57.1	38.6	24.7	16.5	6.5

（資料：平成12年国勢調査）

図10 就労女性人口の推移（武蔵村山市）

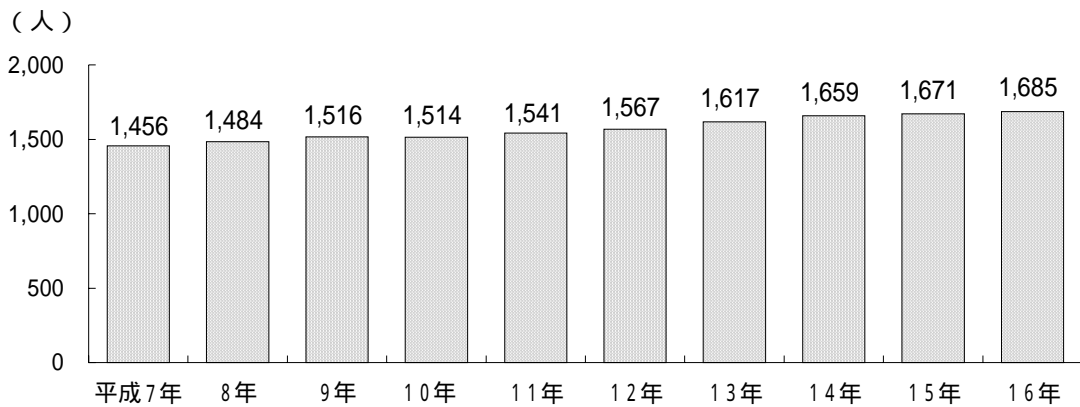


（資料：国勢調査）

（2）仕事と子育ての両立

仕事を継続しながら家事・子育てを行う女性の増加に伴い、保育所入所児童数が増加しています。特に、育児休業法の普及により、母親の産休、育休明けの低年齢児の保育が強く求められています。

図11 市内の保育所の入所児童数の推移



〔資料：児童福祉課
各年度3月31日現在〕

3 保育の状況

(1) 保育児童総数

平成16年4月現在、武蔵村山市には11（公立1、私立10）の認可保育所があり、入所児童数は、平成11年度の1,461人から平成16年度には1,679人となっており、ここ数年増加傾向を示しています。

また、定員に対する入所率についても、同様の傾向を示しており、平成14年度以降は、100%以上の入所率となっています。

表5 認可保育所の定員数・入所児童数等（受託児を含む）

区分	公立	私立	合計
保育所数（所）	1	10	11
定員数（人）	120	1,506	1,626
入所児童数（人）	112	1,567	1,679

資料：児童福祉課
平成16年4月1日現在

表6 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移（受託児を含む）

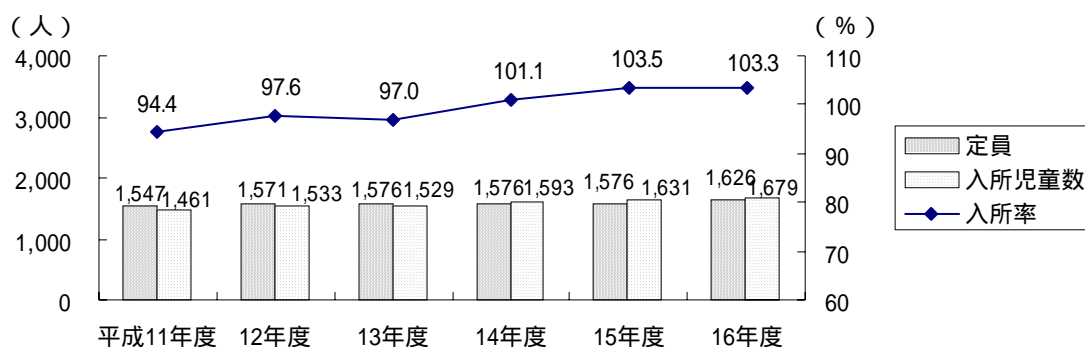
区分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
保育所数（所）	11	11	11	11	11	11
定員数（人）	1,547	1,571	1,576	1,576	1,576	1,626
入所児童数（人）	1,461	1,533	1,529	1,593	1,631	1,679
入所率（%）	94.4	97.6	97.0	101.1	103.5	103.3
利用率（%）	36.3	38.2	39.2	41.0	42.2	44.0

（注1）入所率は、定員に占める入所児童数の比率を示す。

（注2）利用率は、0～5歳の人口に占める入所児童数の比率を示す。

資料：児童福祉課
各年度4月1日現在

図12 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移



(2) 保育所利用率の推移

認可保育所の利用率は、平成12年度の38.2%に比較すると、平成16年度では44.0%となっており、5.8ポイント増加しています。

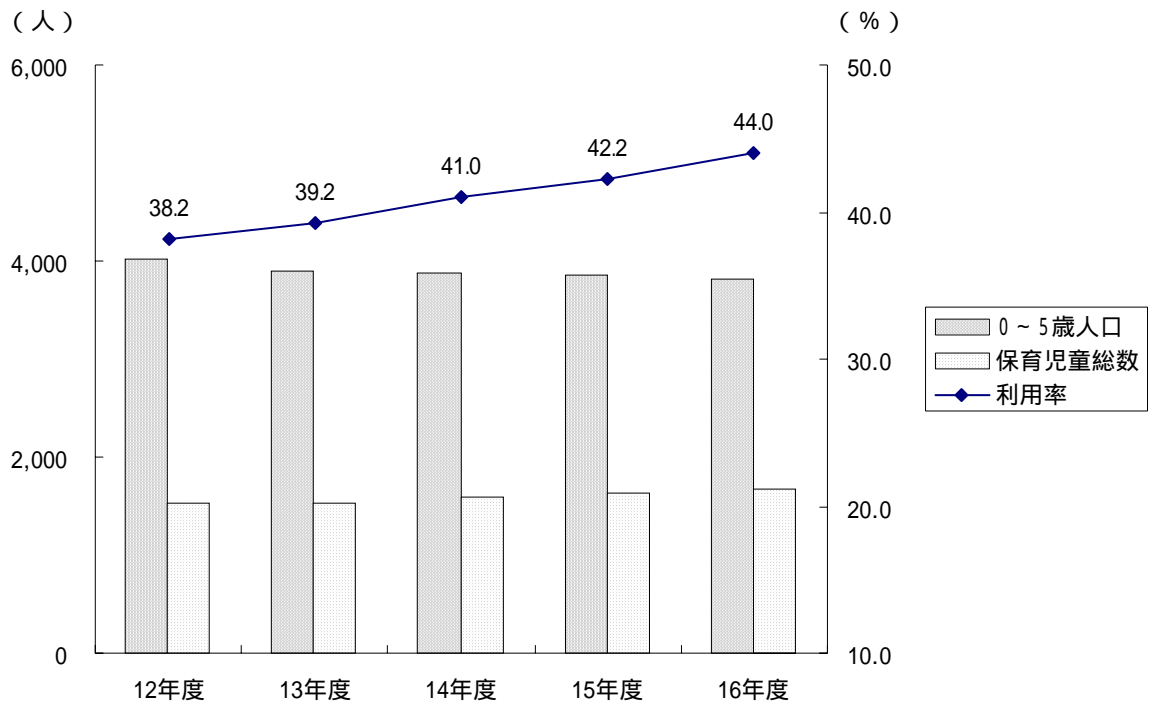
表7 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等

(単位：人、%)

区 分	0～5歳人口	保育児童総数	利用率
平成12年度	4,012	1,533	38.2
平成13年度	3,905	1,529	39.2
平成14年度	3,882	1,593	41.0
平成15年度	3,863	1,631	42.2
平成16年度	3,819	1,679	44.0

資料：児童福祉課
各年度4月1日現在

図13 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等



(3) 待機児童数の推移

認可保育所の待機児童数については、平成15年度は41人、平成16年度は17人となっています。

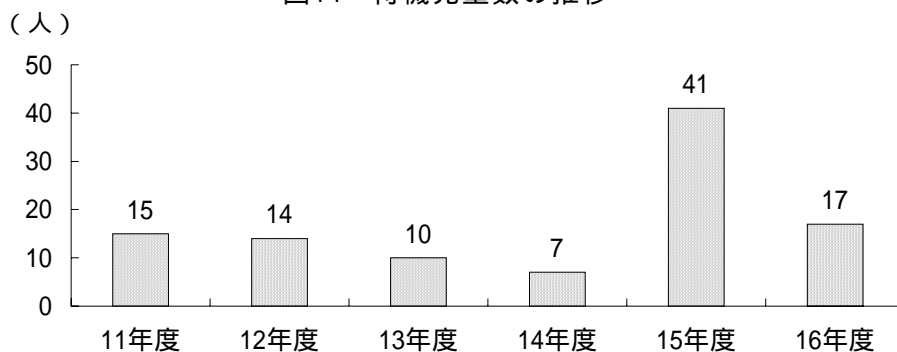
表8 年齢区分別保育待機児童数

(単位：人)

区分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
0歳	0	1	1	1	0	1
1歳	6	5	6	3	15	0
2歳	4	6	1	0	18	12
3歳	2	1	1	2	5	3
4歳	3	1	0	1	2	1
5歳		0	1	0	1	0
合計	15	14	10	7	41	17

資料：児童福祉課
各年度4月1日現在

図14 待機児童数の推移



(4) 低年齢児保育

低年齢児保育は、すべての認可保育所で実施しており、平成16年4月1日現在589人が利用しています。

また、0歳児保育についても全認可保育所が実施しており、101人が利用しています。

表9 認可保育所の低年齢児保育の推移 (受託児を含む)

区分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
低年齢児保育実施所数(所)	11	11	11	11	11	11
0歳児保育実施所数(所)	11	11	11	11	11	11
低年齢児保育児童数(人)	475	513	514	549	573	589
0歳児保育数(人)	63	83	77	81	84	101

(注)低年齢児は0～2歳の児童を示す。

資料：児童福祉課
各年度4月1日現在

(5) 時間延長型保育

時間延長型保育は、平成16年度から5か所の認可保育所で実施しています。延長保育利用者は徐々に増加し、平成15年度実績で、延べ15,416人が利用しています。

表10 時間延長型保育の実施か所数・延長保育利用者数

区 分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
実施保育所(所)	3	3	3	3	4	5
延長保育利用者(延べ人数)	6,958	8,721	8,910	10,065	15,416	

資料：児童福祉課
各年度3月31日現在

(6) 幼稚園の児童総数

武蔵村山市には、幼稚園が4園(私立4)あり、平成16年度の在園児童数は1,110人となっています。利用率は平成13年度以降5割台で推移しています。

表11 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移

区 分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
園数(園)	4	4	4	4	4	4
定員(人)	1,280	1,280	1,280	1,280	1,280	1,280
在園児童数(人)	977	1,036	1,083	1,112	1,097	1,110
入園率(%)	76.3	80.9	84.6	86.9	85.7	86.7
利用率(%)	47.8	49.3	52.5	55.1	55.4	56.8

(注1) 入園率は、定員に占める在園児童数の比率を示す。

(注2) 利用率は、3～5歳の人口に占める在園児童数の比率を示す。

資料：総務課
各年度5月1日現在

(7) 預かり保育(幼稚園)

市内幼稚園では、4園すべてで早朝、延長及び長期休暇の預かり保育を実施しています。預かり保育利用者は徐々に増加し、早朝・延長預かり保育利用者は、平成15年度実績で、延べ15,429人が利用しています。

表12 預かり保育の実施園数・預かり保育利用者数

区 分	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
実施幼稚園(園)	4	4	4	4	4
早朝・延長預かり保育利用者(延べ人数)	9,424	11,674	13,313	15,429	
長期休暇預かり保育利用者(延べ人数)	854	1,226	1,485	1,856	

資料：総務課
各年度3月31日現在

(8) 学童クラブの状況

武蔵村山市には、平成16年4月1日現在、学童クラブが8か所あります。在籍児童数は平成11年度は247人、平成16年度は435人となっており、188人増えています。

表13 学童クラブの実施か所数・在籍児童数

区 分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
実施学童クラブ(所)	7	7	7	7	8	8
在籍児童数(人)	247	267	314	320	397	435

資料：児童福祉課
各年度4月1日現在

図15 学童クラブの在籍児童数

